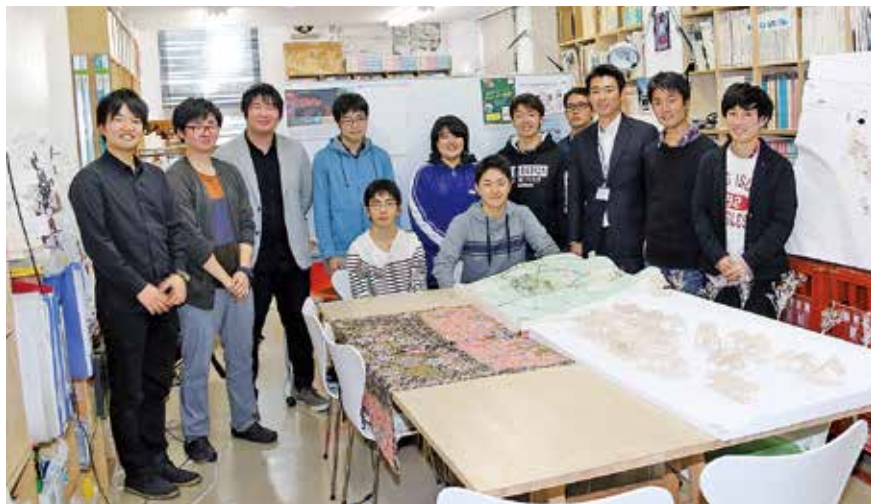


近畿大学工学部建築学科 谷川大輔研究室(歴史意匠研究室)

地域の中で建築・まちづくりを実践



空き家を再生し 地域の交流拠点に

2016年5月、東広島市の福富町で、谷川大輔講師の歴史意匠研究室を中心とする空き家再生プロジェクトが始動した。福富町は、住民の高齢化や若年層の転出で人口が減少している中山間地域に該当し、谷川講師は一昨年、市の職員の紹介で空き家となっていた築後100年ほどになる民家を自ら購入した。多くの中山間地域が抱えている過疎化、空き家の増加といった問題を解決する一つのモデルにしようと、母屋を地域や学生たちの交流や観光客の宿泊に使用できる施設にリノベーションする計画だ。谷川講師は、納屋を自宅に建て替え、母屋のリノベーション後に家族で移り住む予定という。

母屋は時を経て現代住宅に改装されていたが、床下には昔のいろりや火鉢などが残されており、それらの再利用も検討している。学生にとっては、母屋の床の解体、納屋の実測などを通して日本の伝統的民家の様式、在来工法などを学べるなど、建築・

まちづくりを実践できる有意義な活動となっている。

全国紙の地方版、地元紙などが大きく取り上げ、移住者受け入れ・定住促進、空き家対策を重点施策に掲げている広島県や東広島市も、同プロジェクトに着目。市民、行政との一体事業へと展開を見せている。

中山間地域で 新たな感動体験

東京生まれ、東京育ちの谷川講師が近畿大学に着任したのは2012年。それまでは

母校・東京理科大学での研究教育、建築家としての設計活動などに従事していたが、田舎暮らしをしたいという思いが強くなり、東広島市にある近畿大学工学部に着任したという。

谷川講師は「東京と比べ不便かもしれないけれど、豊かな自然に囲まれ、季節ごとに新しい感動を体感しながら生活を送っています。エゴマをはじめ無農薬野菜、自家製餌で育てた鶏の卵、地元牧場の乳製品、天然酵母を使ったパン、地場材の木工などの特産品も多く、それらのオーナーも、福富こだわりの郷グループをつくって、福富町の良さをPRしています。近年は、道の駅も賑わい、僕と同じように移住してくる人が結構いて、まちのさらなる活性化が期待されています」と福富町の魅力を説明する。

2017年3月から11月まで広島県が、中山間地域への共感と誘客促進を主題に持続可能な地域づくりを目指した「ひろしま さとやま未来博 2017」を開催。福富町エリアの中心施設に、改修中の谷川邸の活用が予定されている。また住民自治協議会の「福に富む郷 竹仁」が保有する土地に市場の開設計画が浮上。一画には、広島大学の留学生マヤール・デュラモランデ・ギェルバンさんが提案した、土のうを積み重ねてつくる中東の伝統的建築「アースバッグ・



谷川大輔講師 博士(工学)、一級建築士
たにかわだいすけ
1973年東京都生まれ
1997年東京理科大学工学部第一部建築学科卒業
2001年一級建築士事務所 谷川大輔建築設計事務所設立
2004年東京工業大学大学院博士課程修了
2006年東京理科大学工学部第二部建築学科助教
2012年近畿大学工学部建築学科講師



福富町の民家再生プロジェクト。多くの学生が調査、解体に参加し、伝統建築の構成、在来工法などを体得している

ハウス」が完成済みで、近畿大学も広島大学と共同で新しい市場のプランづくりに参画している。

他大学と共同で 地域ネットワーク構築

「広島出身ではないので、まずは地域とのネットワークを作ろうと、広島大学と共

同で呉市豊町御手洗、世羅町、尾道市瀬戸田、東広島市志和町などで学生ワークショップを開催してそれぞれの地域が抱えている問題点や課題を洗い出し、今後のまちづくりに向けた提案を行ってきました。これらの活動を通し、具体化したのが、福富町の空き家再生や志和みはらし公園整備などのプロジェクトです」

志和町では2014年に、両大学の教員・学生が地元まちづくり自治協議会からの呼びかけで、二宮神社の敷地を活用した「志和みはらし公園」の計画づくり、造成に協力。その縁で二宮神社の宮司から憩いの場としての機能を向上させたいという要請を受け、2016年から境内にある倉庫の休憩スペースとしての再生をはじめとする公園の再整備に着手した。小学生から大人までを交えたワークショップで要望を拾い上げ、休憩所となるパーゴラ(日陰棚)を提案。「来年には実現したい」と谷川講師は話す。



二宮神社の倉庫再生に着手



志和みはらし公園再整備に向けた谷川研究室の提案



社会に貢献する 建築人を目指す

谷川講師が主宰するゼミの名称は歴史意匠研究室。今期は修士2年3人、修士1年1人、学部4年生4人、3年生8人が所属し、現代日本建築家の設計論、建築・都市の構成形成、広島県内のまちづくりなどについて専門的な知識を深めている。

設計論の研究は、一人の建築家に焦点を当てるだけでなく、図書館や劇場、スポーツ施設といった用途ごとに建築作品を集め、それぞれの建築家のコンセプト、デザイン、機能構成などを分析して体系的に整理

する。傾向としてどの用途でも、建築家は違っても設計アプローチに共通点が多いそうだ。

まちづくりの研究では、学生ワークショップなどで学んだ合意形成やマスタープラン作成の手法などを学術的な成果にまとめ上げる。同時に、市民や地域社会に対する建築の専門家としての振る舞い方、プレゼンテーション能力を習得する。

「建築は思想であり、より良い社会の構築に貢献する使命を担っています。しかし、最近、建築家という言葉がファッションみたいになり、本当に社会に役立っているのか疑問に思っています。格好良さや奇抜さ

も表現形式の一つですが、そのデザインに社会性がなければ、建築としての存在価値は認められません。大学が建築家教育を目指すのであれば、学生時代から社会との接点が必要です。学生自身がそうした場をつくるのは難しいので、指導者としてワークショップなど社会的な活動に身を投じる機会を創出しています。卒業生には、市民と一緒に建築の設計やまちづくりにかかわれるような人間になってほしいし、自分もさらに上のレベルで社会に役立ちたいと考えています」

谷川講師は、東広島市の地方創生審議委員会、大規模小売店立地審議委員会、建築審査会の委員を務め、昨年11月からは空き家対策審議会の委員にも任命された。東広島市に転居して5年。「まだまちづくりについては、研究と言うより移住者としての個人的なかかわりの方が強く、気持ちで走っています」と言うものの、着実に地域にとけ込み活動の幅を広げている。

地域の人たちとの交流が勉強の刺激に

質問項目 ①谷川研究室を選んだ理由 ②谷川先生の魅力



橋目悠揮さん
はしめゆうき
修士2年

①意匠系研究室の中で、いろいろな角度から建築の意匠を勉強できるゼミで、先生からも誘ってもらったのがきっかけ。
②厳しいところと厳しくないところのメリハリがある。その厳しさは、社会に出た時に通用できる人間に育てるためのものだとして受け止めている。



檜垣政宏さん
ひがきまさひろ
修士2年

①自分たちの代が谷川研究室の2期生で、当時、先生自身も東京から来て、研究テーマを探っているように自由さを感じた。
②学部生時代はある意味、冗長的な存在だった。大学院に進むと上司と部下の関係に変わったけれどフランクで、研究手法、成果のまとめ方などを一緒に考えてくれる。



山縣怜史さん
やまがたさとし
修士2年

①先輩たちのゼミを見ると、皆が意見を出し合いとても雰囲気よかった。
②優しく、論してくれる先生。



塩澤竜弥さん
しおざわたつや
修士1年

①ワークショップをはじめ外部に出る活動が多いことに惹かれた。
②学生に近い。若々しいところが接しやすい。一方、しっかり厳しく指導してくれる。



天野友貴さん
あまのゆうき
学部4年

①過去の建築がどのような思想の元、設計されてきて、それがどのように周囲に影響を与えてきたのかを学びたいと思った。
②何に対しても積極的で、自分たちの研究に対しても熱意ある指導をしてくれ、いつもパワーをくれる。生徒思いの優しい先生。



上西芳明さん
うえにしよしあき
学部4年

①意匠設計の勉強ができることと、授業で学生に対して熱意をもって接しており、1から丁寧に指導してくれるところに魅力を感じた。
②若々しく、学生に対してフレンドリー。指導してくれる時には熱意をもって本気で接してくれる。



河野友輔さん
こうの
学部4年

①オンとオフがはっきりしており、生徒と真剣に向き合ってくれる姿勢に魅力を受けた。社会人の見本として尊敬できる存在。
②意匠のゼミで実践的に製図ができるのは、他にはないと思った。プロジェクトを持ったこのゼミでさまざまな力を培うことができた。



守本怜矢さん
もりもとれいや
学部4年

①まちづくりに興味があり、建築と地域のつながりや建築の社会での有用性を追求したいと考えた。
②大学の中でも一番パワフル。地域の方からのさまざまな要望に対し、すぐに「yes」と言える人間力がある。

11月、取材時に
後期配属のB3生新メンバー
も参加してくれました！



井村美穂さん
いむらみほ
学部3年

①まちづくりや古民家再生などさまざまなことをゼミ室のメンバーや地域の方々と一緒に活動していくことに魅力を感じた。
②さまざまなことに意欲的に取り組まれていて、いつも建築に対して情熱的に指導してくれる。



影山雅稀さん
かげやまさき
学部3年

①志和のプロジェクトや福富のプロジェクトなど、他では経験できないことが経験でき、学校内ではなく学校外の活動にも力をいれている。
②生徒とともに笑い、ともに考えてくれる。



川口棕太郎さん
かわくちりょうたろう
学部3年

①歴史意匠研究室では、いろいろなプロジェクトがあり、参加してみても先輩・後輩がいっしょになって取り組めたことに興味を持った。
②他の大学の先生よりも若いので、授業内容や考え方に新鮮さがある。熱く語ってくれるので心に響いてくる。



佐藤悠人さん
さとうゆうと
学部3年

①志和などでのプロジェクトで自分たちの計画したものが実際に形になるという研究室の活動に魅力を感じた。
②厳しくも優しい。厳しく指導もされるが、一方で自分たちの疑問・相談について一緒に考えてくれる。



田中聖人さん
たなかまさと
学部3年

①設計学習やワークショップを通じて先生や先輩方と知り合い、研究に取り組んで行く上で、ゼミの雰囲気がもっとも自分に合っていると考えた。
②情熱を持って物事に取り組む姿勢がすばらしい。まじめさだけでなく学生が共感できるようなユーモアにあふれていて、とても接しやすい。



林武志さん
はやしたけし
学部3年

①学内だけでなく学外の活動も多くあり、社会に出たときに役に立つ経験がたくさんつめると考えた。
②困ったことがあれば優しく相談に乗ってくれる。間違ったことにはしっかりと注意し、正しい道に導いてくれる。



毛利展さん
もうりひろ
学部3年

①研究室に集まりみんなで意見を出し合って一つの物を作っていくことに魅力を感じた。
②ダメな部分は厳しく言っていただけけるける反面、とてもフランクで良い物を作りたいと人一倍情熱的。



森脇大揮さん
もりわきたいき
学部3年

①建築の意匠に興味があることと、古民家再生などのワークショップに参加したかった。
②とても接しやすく、生徒の目線でしてくれるので自分たちでも意見をしやすい。